

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要	
建物名称 (仮称)社員研修センター	BEE 2 BEEランク A ★★★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	4.1 /5		よい
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.3	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.4	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4 スコア 3.2
リサイクル材、ユニット部材を採用		耐久性の高い部材を採用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 4.2	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.3	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
CO2換算スコア4.4		節水器具を採用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 2
特になし		特になし	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.73 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: 0.56 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	
建築物移動等円滑化基準を満たしている。			

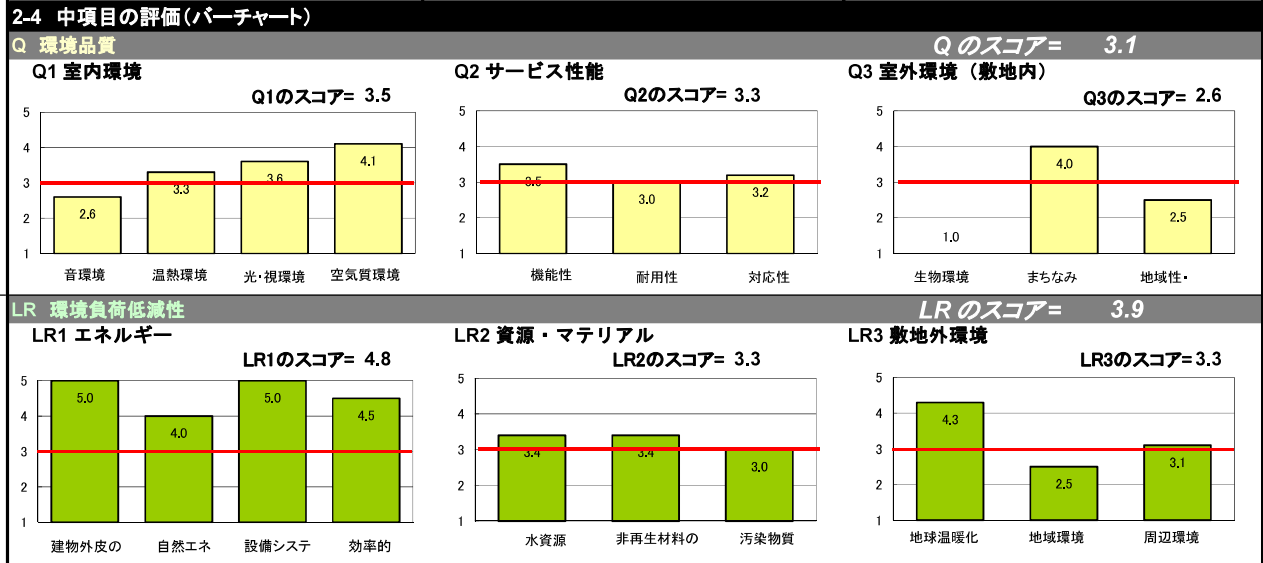
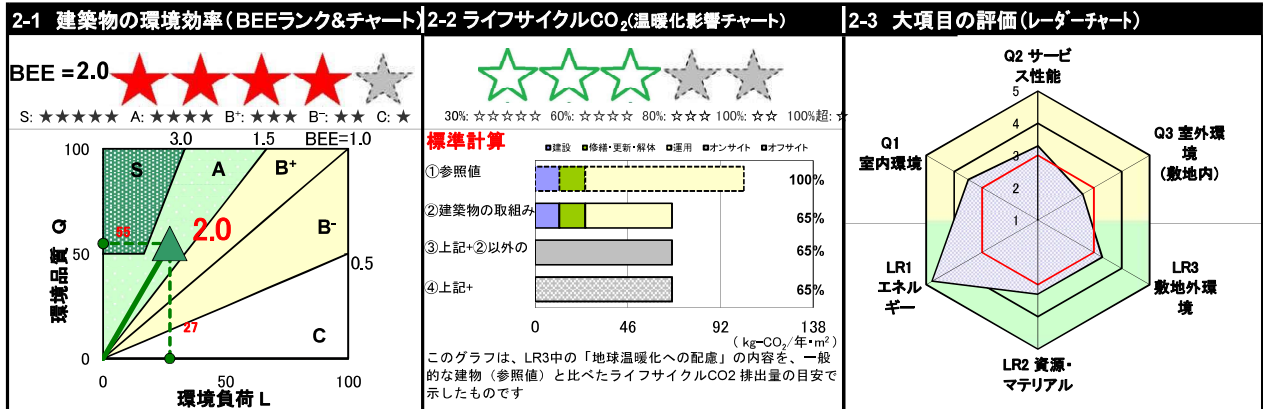
:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)社員研修センター	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法22	平均居住人員	315 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校・ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2020年2月12日
敷地面積	41,405 m ²	作成者	近藤良彦
建築面積	4,651 m ²	確認日	2020年2月12日
延床面積	10,345 m ²	確認者	小林 陽一



3 設計上の配慮事項

総合		その他
未来を育む「始発駅」 これまで培ってきたJR九州の企業文化にたくさんの個性が交わることで新たな未来が生まれる。これからのJR九州の未来を支える技術や人材を育て送り出す「始発駅」としての研修センター		特になし
Q1 室内環境 カーテンバルコニーを設置し、昼光を制御	Q2 サービス性能 快適性に配慮した天井高さや内装計画	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし
LR1 エネルギー 省エネルギーに配慮した建築・設備計画	LR2 資源・マテリアル 節水器具やリサイクル材料を採用	LR3 敷地外環境 周辺道路において渋滞を発生させないように配慮した外構計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)社員研修センター

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.5
1 音環境						2.5	0.15	2.7	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						1.9	0.40	2.4	0.40	
1 開口部遮音性能						1.0	0.51	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.21	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.14	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.14	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.3	0.35	3.4	1.00	3.3
2.1 室温制御						3.7	0.50	3.8	0.50	
1 室温						3.0	0.53	3.0	0.57	
2 外皮性能		Low-Eガラスを採用				5.0	0.35	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.11	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.8	0.25	2.8	1.00	3.6
3.1 昼光利用						4.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率		昼光率2.4				4.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		明るさセンサーを設置				4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御		カーテンバルコニーを設置				3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		1作業単位ごとに照明制御できる回路構成				5.0	0.25	1.0	0.25	
4 空気質環境						4.1	0.25	4.2	1.00	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.38	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	0.23	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.38	3.0	0.33	
4.3 運用管理						3.6	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 濃度を自動観測				5.0	0.35	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.65	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						3.7	0.40	2.4	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	1.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	1.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	1.0	0.50	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.9	0.30	4.5	0.40	
1 広さ感・景観		天井高2.6m				2.0	0.35	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画		インテリアパースを作成				5.0	0.65	5.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い材料を使用				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		各部の清掃に配慮した設計				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		21年以上30年未満				4.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年以上				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種2種類以上にC以上を採用				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	2.9	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			4.6	0.21	2.8	0.50	
1 階高のゆとり		階高4.0m	5.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.18	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.21	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.58	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		防犯カメラの設置	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m 0.73	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		クール&ヒートレンチシステムを採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.56	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		BEMSによるモニタリング	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		エネルギー削減の目標値を建築主に提出	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水器具を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		陶磁器質タイル、プラスチックデッキ材	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ユニット部材を利用(LGS、タイルカーペット、OAフロア)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		CO2換算スコア4.3	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		車回しを十分にとった渋滞を起こさせない外構計画	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策チェックリストを一部充足、広告物照明なし、	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	